

1. 学会誌編集委員会*1

武田 裕子*2（委員長・順天堂大学大学院医学研究科）

学会誌編集委員会は隔月開催で、機関誌「医学教育」を年間6冊発刊している（大会予稿集・補刷・は大会担当校による）。医学・医療者教育をテーマにした研究論文のほか、委員会報告、掲示板（意見・アナウンスメント・ニュース・書評・文献紹介）の区分で投稿を受け付けている。査読有り論文は、原著、教育実践研究、総説、短報、実践報告—新たな試み—で、投稿数と採択率を表に示す。

そのときどきの重要課題については、特集や招待論文を掲載している。49巻5号で、「日本医学教育学会50周年記念特集」を、50巻2号で「学会誌50巻発行記念特集」を組んだ。また、51巻3号では「パンデミック下の医学教育—現在進行形の実践報告—」を特集し、プレスリリースを行った。51巻5号では、「コロナ禍における医療人育成」の特集で歯学、薬学、看護学、理学療法・作業療法学領域の実践報告を掲載した。特集企画への投稿論文も含めると、2020年の投稿は200本に上った。これは、機関誌「医学教育」史上最多である。「医学教育」への投稿が、例え不採択であっても次の研究につながるように、採否を通知する際には査読コメント全文に加え編集委員会からもコメントを添えている。

委員会では、「医学教育」が会員間の意見交換・情報共有のプラットフォームとなり、医学教育研究推進に貢献すべく、さまざまな試みを続けている。2016年10月（第47巻5号）より招待論文として開始した「懸田賞受賞者によるリレー・エッセイ」の連載は、毎号、研究への前向きな思いが語られ、52巻6号で一旦終了した。53

表 「医学教育」投稿数と採択率

年（1月-12月） 1号－6号	全投稿数	査読有り 論文投稿数	査読有り 論文採択率
2012（43巻）	55	30	40.00%
2013（44巻）	70	42	54.80%
2014（45巻）	59	33	36.40%
2015（46巻）	61	32	46.90%
2016（47巻）	82	39	15.40%
2017（48巻）	81	42	42.90%
2018（49巻）	59	31	48.40%
2019（50巻）	71	35	37.10%
2020（51巻）	97	53	37.70%

巻1号からは、前年の学会大会で授賞された「牛場賞」「日野原賞」「懸田賞」ならびに演題発表や動画コンテスト受賞者の言葉を紹介する頁を設けている。49巻2号から試験的に始まった「実践報告—新たな試み—」は、50巻6号に投稿規定に加えられ、現在、最も投稿数の多い区分となっている。教育理論に基づいた考察を必須としており、医学教育学の概念的枠組みについて読者が学べるものになっている。その他、51巻から掲示板（意見、てがみ）欄に寄せられた掲載論文への意見やコメントについては、その論文の著者に応答していただいて同時掲載することを始めた。医学教育研究の発展とすそ野の広がり貢献すべく活動を続けている。

副委員長：西城卓也、委員：今福輪太郎、菊川誠、小林志津子、椎橋実智男、高村昭輝、土屋静馬、鶴田潤、中村真理子、錦織宏、前野貴美、松山泰、八木（佐伯）街子、Manuscript Editor: Marcellus Nealy、顧問：福島統

*1 Editorial Board Committee

*2 Yuko Takeda